

2020年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年10月11日

上場会社名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東
 コード番号 7829 URL http://www.samantha.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役会長兼社長 (氏名)藤田 雅章
 問合せ先責任者 (役職名)取締役副社長 (氏名)菅原 隆司 (TEL) 03(6400)5524
 四半期報告書提出予定日 2019年10月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年2月期第2四半期の連結業績 (2019年3月1日～2019年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第2四半期	12,157	△13.2	△288	—	△396	—	△437	—
2019年2月期第2四半期	14,011	△11.6	530	—	501	—	298	—

(注) 包括利益 2020年2月期第2四半期 △466百万円 (—%) 2019年2月期第2四半期 271百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第2四半期	△12.38	—
2019年2月期第2四半期	8.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第2四半期	13,340	2,380	16.6
2019年2月期	14,150	3,200	21.3

(参考) 自己資本 2020年2月期第2四半期 2,212百万円 2019年2月期 3,015百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年2月期	—	0.00	—	—	—
2020年2月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年2月期の連結業績予想 (2019年3月1日～2020年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	26,018	△6.2	220	△66.9	141	△77.2	118	—
								3.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年2月期2Q	35,296,000株	2019年2月期	35,296,000株
2020年2月期2Q	—株	2019年2月期	—株
2020年2月期2Q	35,296,000株	2019年2月期2Q	35,296,000株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(追加情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな景気回復の動きが見られた一方、米政権の政策や欧州における政治リスク、アジア諸国の経済動向等、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、ECやコト消費の続伸、個人間取引市場の成長による購買チャネルの多様化の影響もあり消費構造そのものが転換期を迎えております。

当社グループはこのような環境に対応すべく今年5月に新経営体制へ移行して以来、商品企画力や良質素材調達力を強化し、生産背景の再構築及び品質管理体制の強化を推進しており、これまで以上に消費者ニーズを捉える経営に注力し、高収益体質の確立に向けた改革を進行しております。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、事業再編による低採算店舗の整理などに伴う店舗数の減少(前年同期比で41店舗の減少)や、台風、豪雨などの不安定な気候変化が集客に一部影響したこともあり、121億57百万円(前年同期比13.2%減)となりました。

売上総利益率は、財務体質の健全化を図るため過剰在庫の削減を積極的に行ったことによる原価率の上昇により前年同期比4.4ポイント減の65.7%となり、売上総利益額は79億91百万円(前年同期比18.7%減)となりました。

販売費及び一般管理費は、人件費や業務委託費等の見直しを行い一定の削減効果が生じておりますが、連結子会社の事業年度等に関する事項を見直し、一部の連結子会社において生じていた決算期ずれの補正を行い連結会計において費用の前倒し計上を行ったことなどにより、対売上高比率は、前年同期比1.8ポイント増の68.1%となりました。営業利益は事業再編による減収の影響もあり2億88百万円の損失(前年同期は5億30百万円の利益)となりました。

営業外損益は、営業外収益合計5百万円、為替差損92百万円を含む営業外費用合計1億13百万円を計上し、経常損失は3億96百万円(前年同期は5億1百万円の利益)となりました。

また、法人税等合計11百万円を計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は4億37百万円(前年同期は2億98百万円の利益)となりました。

なお、当社グループは「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの主な取組みは以下のとおりであります。

<新経営体制について>

2018年3月より開始いたしました「社員の自立と自走」を目標としたカンパニー事業部制の導入及び11の管理部門の社内大改革による一定の成果をより持続的かつ成長させるために、新経営体制への移行を実施いたしました。特に社内オペレーションを強化するために、COO最高執行責任者を起用いたしました。

海外事業につきましても今後はよりグローバルな視点を以て、強化推進してまいります。

<商品戦略について>

2019年5月に新経営体制へ移行して以来、商品企画力や良質素材調達力を強化し、生産背景の再構築及び品質管理体制の強化を推進しており、これまで以上に消費者ニーズを捉えた商品を提案しております。

2019年8月、サマンサタバサにおいて「NEO MASCULINE(ネオ マスキュリン)」をテーマに自然体でありながら芯の強い女性像をイメージしたブランディングにおける商品の販売を開始いたしました。

ディズニーキャラクターの「美女と野獣」のベルコレクション、「リトル・マーメイド」のアリエルシリーズや「眠れる森の美女」のオーロラ姫コレクションをはじめとした多数のコラボレーション商品を展開いたしました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、サマンサタバサはスポーツを通じて社会を元気にしたいという思いを込め、スポーツ団体と連携して国内スポーツ活動の推進を支援しております。その一環として、3回目となる「広島東洋カープ」とのコラボレーションや、新たに「読売ジャイアンツ」、「阪神タイガース」、「埼玉西武ライオンズ」、「福岡ソフトバンクホークス」をはじめとした10球団との初のコラボレーション商品の販売を開始いたしました。

そして、世代を問わず支持される美容家、神崎恵さんとのコラボレーションを開始いたしました。紫外線対策とデザインや着心地にこだわったUVカットコレクションとして展開した大判のストールやカーディガン、ハットは好評をいただきました。

また、サマンサタバサで働く女性社員の声から生まれた、脚やボディをキレイに保つ、サマンサボディトリートメントを発売いたしました。サマンサタバサとして初の定期購入型の単品通販を採用いたしました。

そして、オンキヨー株式会社、エイベックス株式会社と三社共同で製品開発を進めた「サマンサワイヤレスイヤホン」の販売を開始いたしました。本製品は多くの若年層から支持を受けるロックバンド「I Don't Like Mondays.」に

よる監修が施された本格仕様となっており、当初の計画台数を上回りご好評をいただきました。

<プロモーション活動について>

2019年3月にサマンサタバサは創業25周年を迎えました。この25年間に出会い、また、これから出会うすべての皆様への感謝を込めた様々な取り組みを実施いたしました。

「トイ・ストーリー4」、「ライオン・キング」、「くまのプーさん」などのディズニー映画の公開や、劇場版「名探偵コナン 紺青の拳」の公開を記念し、サマンサタバサ表参道GATES ポップアップデジタルストアにおいて各コラボレーション商品による期間限定コラボショップをオープンいたしました。

2019年5月、開業7周年の東京スカイツリータウン®において、結成7周年を迎えたGENERATIONS from EXILE TRIBEのメンバー7名を招き、お客様のなかから抽選で400組800名様をご招待し東京スカイツリーの特別ライティング点灯式を実施いたしました。

当社グループが主催する女子ゴルフトーナメントである「サマンサタバサ ガールズコレクション・レディーストーナメント 2019」を、2019年7月に、茨城県・イーグルポイントゴルフクラブで開催し、大会3日間で約1万3千人の方にご来場いただきました。

そして、当社ウェア契約の勝みなみプロがパナソニックオープンレディス及び中京テレビ・ブリヂストンレディスオープンにおいて優勝し、当社ゴルフウェア取り扱い店舗をはじめ全ブランドにおいて優勝記念キャンペーンを実施いたしました。

<店舗展開について>

選択と集中による事業再編に伴う低採算店舗の整理を行ってまいりました。事業別の出退店数、主な店舗は以下のとおりであります。

バッグ事業においては、「Samantha Thavasa Petit Choice (サマンサタバサプチチョイス)」を錦糸町パルコに、「Samantha Vega (サマンサベガ)」を沖縄県浦添市のパルコシティに出店いたしました。(13店舗の退店)

ジュエリー事業においては、1店舗の退店となりました。

アパレル事業においては、1店舗「REDYAZEL (レディアゼル)」を静岡パルコに出店いたしました。(5店舗の退店)

海外においては、1店舗「Samantha Thavasa (サマンサタバサ)」を韓国の現代百貨店大邱店に出店いたしました。(3店舗の退店)

その結果、サマンサタバサグループ合計で前年度末比で18店舗純減し、当第2四半期連結累計期間末の店舗数は315店舗となりました。

<CSR活動について>

Yahoo! JAPANが実施する東日本大震災復興支援チャリティーオークションに、サマンサタバサ25周年キックオフ・プレ発表会に出演していただいた新田真剣佑さん、白石麻衣さん、白濱亜嵐さんをはじめとする総勢26名の直筆サイン入りバッグを出品いたしました。落札金額は、一般社団法人ウェブベルマーク協会を通じ、福島、宮城、岩手の被災校139校に寄付いたしました。

サマンサタバサグループ初となるサステナビリティへの取り組みとして下取りサービス「Samantha Treasure (サマンサトレジャー)」を「Samantha Vega (サマンサベガ)」において開始いたしました。クローゼットで眠っている「Samantha Vega」のバッグをサマンサトレジャーのURLから下取りにお申込みいただくと、サマンサタバサ公式オンラインショップでのご購入で使用できる最大3,000円(税込)のクーポンを発行するキャンペーンを実施いたしました。

アフリカで縫製工場を運営し雇用創出を行っている「CLOUDY」と協業し、ガーナの伝統工芸品である現地生産の「かごバッグ」をはじめとしたコラボレーション商品を展開いたしました。アーティストLaraさんがガーナに赴き現地のエネルギーな人々から受けたインスピレーションを商品イラストに採用いたしました。

また、福島大学に新設された「農学群食農学類」の学生の皆様と福島産の米を使用した日本酒の開発プロジェクトを開始いたしました。同プロジェクトを通じて復興支援活動及び若い世代の日本酒に対するイメージを刷新し、福島産日本酒のおいしさを広く発信してまいります。

スポーツ庁が掲げる大学スポーツ振興事業の対象校である山梨学院大学及びスポーツ科学の学究に取り組む大東文化大学、日本女子体育大学の3校と共に、女子学生アスリートの応援を通じ女性の社会的活動の推進を目指す産学連携プロジェクト「2020サマンサスポーツレディ」による商品開発を開始いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

総資産は133億40百万円であり、前連結会計年度末と比較して7億93百万円減少しております。主な要因は、受取手形及び売掛金が2億50百万円増加した一方、商品及び製品が8億18百万円減少したことなどによるものであります。

総負債は109億59百万円であり、前連結会計年度末と比較して26百万円増加しております。主な要因は、短期借入金7億円増加した一方、長期借入金6億23百万円減少したことなどによるものであります。

純資産は23億80百万円であり、前連結会計年度末と比較して8億19百万円減少しております。主な要因は、利益剰余金が10億55百万円増加した一方、資本剰余金が18億46百万円減少したことなどによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ、95百万円減少し、18億95百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、3億73百万円（前年同四半期は7億74百万円の資金の増加）となりました。主な増加要因は、減価償却費2億25百万円、たな卸資産の減少額7億65百万円などによるものであり、主な減少要因は、税金等調整前四半期純損失4億22百万円、売上債権の増加額2億61百万円、仕入債務の減少額2億3百万円などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、1億5百万円（前年同四半期は89百万円の資金の減少）となりました。主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出1億58百万円、無形固定資産の取得による支出50百万円などによるものであり、主な増加要因は、敷金及び保証金の回収による収入1億37百万円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、3億19百万円（前年同四半期は6億76百万円の資金の減少）となりました。主な減少要因は、長期借入金の返済による支出11億68百万円などによるものであり、主な増加要因は、短期借入金の純増加額7億円などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期通期の業績予想につきましては、新経営体制のもと急速に行っている上記改革の効果が第4四半期に向け徐々に生じ始める見込みであるものの、第2四半期における財務体質の健全化を積極的に行った影響が第3四半期にも一部継続することを見込み、2019年9月20日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,990,821	1,895,279
受取手形及び売掛金	1,405,406	1,655,990
商品及び製品	6,330,240	5,511,681
原材料及び貯蔵品	173,803	181,539
仕掛品	-	768
その他	305,828	312,413
貸倒引当金	△628	△628
流動資産合計	10,205,470	9,557,043
固定資産		
有形固定資産	1,044,322	1,038,511
無形固定資産		
その他	338,777	299,147
無形固定資産合計	338,777	299,147
投資その他の資産		
差入保証金	2,056,689	1,943,319
その他	488,533	501,999
投資その他の資産合計	2,545,223	2,445,319
固定資産合計	3,928,323	3,782,978
資産合計	14,133,794	13,340,022
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,235,267	984,973
短期借入金	500,000	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	4,456,259	4,410,891
未払法人税等	148,515	75,164
賞与引当金	146,158	152,121
その他	1,024,766	1,360,606
流動負債合計	7,510,966	8,183,757
固定負債		
長期借入金	3,286,356	2,662,930
その他	135,711	112,372
固定負債合計	3,422,067	2,775,302
負債合計	10,933,034	10,959,059

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	406,592
利益剰余金	△1,287,689	△231,696
株主資本合計	3,097,510	2,307,495
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,752	△7,726
為替換算調整勘定	△91,039	△87,240
その他の包括利益累計額合計	△82,287	△94,966
非支配株主持分	185,536	168,434
純資産合計	3,200,759	2,380,963
負債純資産合計	14,133,794	13,340,022

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
売上高	14,011,610	12,157,694
売上原価	4,186,761	4,166,410
売上総利益	9,824,849	7,991,284
販売費及び一般管理費	9,294,565	8,280,064
営業利益又は営業損失(△)	530,283	△288,779
営業外収益		
受取利息	614	775
受取配当金	480	939
その他	5,160	4,264
営業外収益合計	6,254	5,979
営業外費用		
支払利息	17,359	12,007
為替差損	15,725	92,858
その他	2,341	8,862
営業外費用合計	35,426	113,727
経常利益又は経常損失(△)	501,112	△396,527
特別損失		
固定資産除却損	47,052	25,505
特別損失合計	47,052	25,505
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	454,059	△422,033
法人税、住民税及び事業税	50,784	33,660
法人税等調整額	143,484	△22,628
法人税等合計	194,269	11,032
四半期純利益又は四半期純損失(△)	259,790	△433,065
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△38,952	3,989
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	298,743	△437,054

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	259,790	△433,065
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,643	△16,478
為替換算調整勘定	9,731	△17,292
その他の包括利益合計	11,375	△33,771
四半期包括利益	271,165	△466,836
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	309,779	△449,734
非支配株主に係る四半期包括利益	△38,613	△17,102

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年3月1日 至2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	454,059	△422,033
減価償却費	247,795	225,597
賞与引当金の増減額(△は減少)	9,372	5,962
受取利息及び受取配当金	△1,094	△1,715
為替差損益(△は益)	1,571	23,550
支払利息	17,359	12,007
固定資産除却損	47,052	25,505
売上債権の増減額(△は増加)	△3,886	△261,640
たな卸資産の増減額(△は増加)	△306,643	765,608
仕入債務の増減額(△は減少)	137,969	△203,292
その他	72,345	293,588
小計	675,900	463,137
利息及び配当金の受取額	594	1,436
利息の支払額	△17,982	△11,020
法人税等の還付額	154,801	712
法人税等の支払額	△38,809	△81,146
営業活動によるキャッシュ・フロー	774,503	373,120
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△124,237	△158,753
無形固定資産の取得による支出	△28,341	△50,822
投資有価証券の取得による支出	△2,935	△3,625
敷金及び保証金の差入による支出	△30,845	△24,591
敷金及び保証金の回収による収入	80,848	137,146
その他	16,122	△4,528
投資活動によるキャッシュ・フロー	△89,387	△105,175
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	504,004	700,000
長期借入れによる収入	118,000	500,000
長期借入金の返済による支出	△1,122,160	△1,168,794
配当金の支払額	△176,228	△350,848
財務活動によるキャッシュ・フロー	△676,384	△319,642
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17,437	△43,844
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△8,705	△95,542
現金及び現金同等物の期首残高	2,564,037	1,990,821
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,555,332	1,895,279

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

従来、連結子会社のうち決算日が12月31日である株式会社サマンサタバサリゾートについては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っていましたが、連結財務諸表のより適切な開示を図るために、第1四半期連結会計期間より四半期連結決算日現在で仮決算を行い連結する方法に変更しております。この変更は、当該子会社は例年7月の費用計上額が大きいため、連結財務諸表のより適切な開示を図るために実施したものであります。

この変更に伴い、当該子会社の損益については、当第2四半期連結累計期間は2019年1月1日から2019年8月31日までの8ヶ月間を連結し、連結損益計算書を通して調整しております。

なお、この変更により、従来の方と比べて、当第2四半期連結累計期間の営業損失が265,057千円、経常損失及び税金等調整前四半期純損失が265,213千円増加しております。

(重要な後発事象)

2019年9月9日に関東地方に上陸した台風15号により、当社の連結子会社である株式会社バーンデストロースジャパンリミテッドの千葉県茂原市の倉庫において、暴風雨に伴う商品等の被害が発生いたしました。この被害による被害額及び保険金額に関しては現在調査中であり、合理的な見積りは困難であります。